

保育者養成における造形能力と造形指導のあり方 ——造形活動のつくる領域における 教材研究を通して——

Modeling capability and Modeling coaching
for Childcare Worker:
Through the study of Educational materials in the Making
part of Modeling activities

矢元 政行

Masayuki Yamoto

はじめに

幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領によって、幼児教育において育みたい「資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として3つの柱が示されている。幼児教育の5つの領域「健康・人間関係・環境・言葉・表現」のねらいや内容に基づいた活動を具体化したものとして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」であらわしている。その中で、造形として最も関わりが深いものは10に示されている「豊かな感性と表現」であり、保育者は作品の出来ではなく、表現している時の子どもの喜びや工夫に気づき、しっかりと受け止めることが大事であると記述されている。

幼児教育における造形の重要性については、「感性を豊かにし自然やものを愛する心情を育てる」「造形活動を通して、体験を充実させ生きる力を育てる」「つくる喜び表現する喜びを味わい、自己表現や芸術活動を楽しむ」「造形能力の発達を通して、生きていく諸能力の発達を促す」とされており、人間形成の一環としての造形教育の意義は大きく、これに携わる保育者の担う役割は言うまでもなく重要である。幼児の造形は、発達に応じた手や体の動き、感覚を豊かにするということや、生活の中での様々な発見や感動を体験する重要性が示されている。保育者は指導・援助を通じて表現する楽しさや喜びを伝え、子どもの興味・関心を誘発できることが望ましいと考える。そして、保育者自身が多くの経験を積み、豊かな感性や自然やものを愛する心情を持ち、造形能力を備えて表現活動を楽しめる存在でなくてはならない。これらを踏まえ保育者養成校ではどのようなシラバ

ス（授業計画）が望ましいのか考えたい。

現在、保育者養成校において、幼児の造形表現の領域設定では、えがく領域、つくる領域、造形あそびの3つの領域に分けられている。幼児教育・保育における造形の指導・援助では、様々な表現において技術は必要不可欠なものであるが、造形作家を目指した教育でないことは明らかで、豊かな人間力を目指した幼児教育に造形活動がどのように関わっていくのか、そのことを見通した造形の指導・援助が行われなければならないと考える。

現在、私は保育者養成校の造形を担当している。入学した学生に造形（図工・美術）について聞くと、造形が好きという学生は、相対的に少なく、どちらかと言うと不得意、あまり好きではないという苦手意識を訴える学生の多さが気になった。その理由は、絵をうまく描けない、物をつくることが不器用でうまくできないという、造形の楽しさより表現技術の苦手意識が強いことが見えてきた。

養成校においては、造形の授業を通して多種の表現技術を体験できるか、十分なカリキュラム構造の理解に基づいた教材の設定とその成果の検証が必要であると考えます。つまり、それぞれの教材では何を目的とし、それがどのように学生の表現技術の苦手意識の改善につながるか。将来子どもの指導・援助に当たる学生が、造形活動を体験してその楽しさを自ら感じ表現することに自信を持つことは、幼児の豊かな発達に大きな役割を果たす造形活動に携わる保育者となる学生にとって非常に意義のあることである。保育者養成校の造形関係授業の実態と展開とその成果などを通して、今後の造形授業の教材とそのあり方について考えてみたい。

研究方法

「えがく」ことに対する学生の苦手意識とほぼ同じくらい「つくる」ことに対する苦手意識もある。このつくる領域における教材の研究を進めることで、今後の養成校における望ましい造形の教材について考えることにした。今回、北海道に居住する保育士資格及び幼稚園教諭免許の取得を目指す短期大学通信教育課程スクーリング受講生と専門学校の学生98人を対象に造形での「つくる」ことに対するアンケート調査を行った。「つくる」ことに対して学生が苦手と感じたのは67%にもなっていた。この要因として、小学生の時期に46%、中学生の時期に31%とほとんどの学生は小・中学校の時期に苦手意識を持ったようである。その理由は「自分のつくりたい物のアイデアが思い浮かばない」「不器用なためうまくつけれない」「自分のつくった物は、他の人より上手くない」「つくるのが苦手」など、他の人より劣っていると感じている。発想やイメージが浮かばない、うまくつけれないなどを挙げている。つくることが得意と答えた学生についても表現技術的な要因が、その理由に挙げられており、表現技術が造形に対する学生の意識に大きく関わっていることが分かった。そこで、研究では、養成校における造形の授業の中で、つくる領域で学生自身が楽しく活動でき造形に対する苦手意識を克服し、造形活動に興味・関心を抱くことができる教材について考えてみたい。

自分が指導している短期大学、専門学校の学生を対象に、造形のつくる領域の授業で行った教材について、授業後に次の内容でアンケート調査を行う。よくできたこと、難しかったこと、楽しむことができたか、なぜそう感じたのか、実習や将来保育者となった時に取り入れたいかなどを書いてもらい、将来、保育者となる学生にとって、より効果的な教材について検討していく。

紙コップを使った造形教材による活動

1. 紙コップを使った造形教材の概要

紙コップは、手軽に手に入り安価で数多く準備でき種類も豊富である。うがい用の小さな物から大きい物まで様々なサイズがあるため制作内容に合わせて選ぶことができる。入れ物などの活用方法も色々あり、素材もしっかりしているので造形の制作に大変適している。

2. 紙コップを使った造形教材を取り入れるねらい

- ・紙コップで使ういろいろな素材に触れながら、自分で表現することを楽しむことができる。
- ・紙コップに絵を描き、ハサミで切り、貼るなど容易な技術で制作を楽しむことができる。
- ・つくったものを使って遊ぶ楽しさを味わうことができる。

3. 紙コップを使った造形教材の実践例1：「けん玉」

(1) 題材について

日本の伝統的な子どもの遊びとして定番のけん玉が、紙コップとひも、アルミホイルなど身近にある材料で簡単にすることができる。紙コップの大きさやひもの長さ、アルミホイルで丸める球の大きさなどを工夫すると様々なけん玉が作れる。絵を描き装飾することで自分だけのけん玉ができる。

(2) 材料と用具について

- ・紙コップ2個
- ・ひも（毛糸やタコ糸など20～30cm）
- ・アルミホイル
- ・ビニールテープ
- ・はさみ
- ・マジック
- ・シール

(3) 造形活動の流れ

- ・ひもの先を玉結びしてから紙コップの底にテープでつける。
- ・アルミホイルにひもの先を入れてまるめ、手でギュッとにぎって固く丸くする。
- ・紙コップと紙コップの底を合わせビニールテープでつなげる。
- ・紙コップにマジックなどで絵を描き、折り紙などで飾り付けをする。
- ・紙コップのけん玉に球を入れて遊ぶ。

(4) 学生の感想

紙コップでけん玉をつくることは、正直言って思いつかなかった。つくり方は大変簡単で時間もかからない。紙コップのけん玉は、自分の好きな大きさに球をつくることができたので、けん玉が得意でなくても楽しく遊べた。いつも何かをつくる時には悩むが、アイデアに悩むことなくすぐ取り組めた。子どもにも紙コップで好きな物をつくって、出来上がった時の喜びを味わわせたいと思った。

4. 紙コップを使った造形教材の実践例2：「びっくりカップ」

(1) 題材について

紙コップとかさ袋、ストローがあればつくれる題材である。ストローにかさ袋を付け、それを紙コップに入れストローで空気を吹き込むと、かさ袋が膨らみもこもこと飛び出してくる。空気が漏れないように工夫する必要があるが、単純で簡単な紙コップおもちゃである。中から出るものを考え創意工夫してつくって遊び、小さな子どもには、つくって見せればもこもこ飛び出すのを楽しく感じて喜ばれる。

(2) 材料と用具について

・紙コップ ・ストロー ・かさ袋 ・油性ペン ・セロハンテープ ・両面テープ ・千枚通し (穴を開ける道具)

(3) 造形活動の流れ

- ・かさ袋の長さを決めて切る。かさ袋の口ToStrローをつける。
(かさ袋とストローに隙間があると膨らまないなので、セロハンテープをしっかりと何回も巻き付ける。)
- ・かさ袋にマジックで絵やイラストを描く、色紙やスズランテープなどを貼り付ける。
(かさ袋の中にちぎった折り紙や紙テープなどを入れると、膨らませた時にひらひら舞って楽しめる。)
- ・紙コップの下に穴を開け、紙コップの内側から穴にかさ袋を付けたストローを差し込む。
- ・紙コップの上部に厚紙で蓋を付け、1か所だけセロハンテープでとめる。
- ・紙コップの外側にも絵やイラストを描いたり、シールなどを貼ったりすると面白い。
- ・ストローで息を吹き、かさ袋がむくむくと飛び出すのを楽しむ。

(4) 学生の感想

私は、紙コップで朝顔のつるが伸びていくのをイメージして「びっくりカップ」をつくった。イメージ通りのものがつくれたのでとても楽しかった。朝顔のつるをもう少し長くすればよかったかなと思ったが、つるが伸びていく様子は、十分に表現できたので満足している。もっと色々なテーマで「びっくりカップ」をつくり、様々な紙コップ工作をしたいと思う。



写真1～学生作品「けん玉」～



写真2～学生作品「びっくりカップ」～

牛乳パックを使った造形教材による活動

1. 牛乳パックを使った造形教材の概要

子どもは、身近にある材料を使つての「ものづくり」を楽しんでいる。特に、牛乳パック工作の最大の魅力は飲み終わった後の、言わば廃材を使って様々な物をつることができるところである。廃材も工夫次第で再活用できることを子どもは学べる。牛乳パック工作は、主に家にある材料でつくるので費用が安く済み、箱型で丈夫で水に強いことから年齢に応じて様々な物をつくれる。子どもたちは、つくることを喜び楽しむことができ情操教育へと繋がっていく教材である。

2. 牛乳パックを使った造形教材を取り入れるねらい

- ・廃材としての牛乳パックを活用することで、自身を取り巻く環境に興味を持つことができる。
- ・牛乳パックからイメージを膨らませ、自分なりに試行錯誤しアイデアを練ることができる。
- ・牛乳パックに興味を持ち、性質や使い方を知り、容易な加工技術で制作を楽しむことができる。
- ・想像力を働かせながら制作する中で考える力を養うことができる。
- ・廃材遊びを通して友達とコミュニケーションを楽しむことができる。

3. 牛乳パックを使った造形教材の実践例1：「ヨーヨー」

(1) 題材について

切り開いた牛乳パックをステープラーで止め、輪ゴムを通すだけで比較的簡単にできる。輪ゴムを付けて手のひらを広げヨーヨーとして遊ぶ。切り開いた牛乳パックの長さを考えると、大きなヨーヨーから小さなヨーヨーまでつくれる。牛乳パックの紙は厚くて丈夫なため、牛乳パックでつくったヨーヨーは、壊れにくく楽しく遊べる題材である。

(2) 材料と用具について

- ・牛乳パック ・はさみ ・輪ゴム3本 ・ステープラー ・セロハンテープ ・定規
- ・千枚通し ・マジックやシールなど

(3) 造形活動の流れ

- ・牛乳パックは底の部分を中心に側面を切り開く。
- ・側面を長めにとると大きいヨーヨーができる。短めにとると小さなヨーヨーとなる。
- ・牛乳パックの底中央に千枚通しで穴を開ける。(底面の厚みのない方に開けるとよい。)
- ・穴に輪ゴムを通し、輪ゴムをつなげる。
- ・牛乳パックの白い面の底の部分が上になるように置き、マジックで絵を描く(シールを貼る。)
- ・向かい合った側面の下部分を重ね、ステープラーで止める。
- ・針の先がヨーヨーの内側になるようセロハンテープで止め、反対側の側面もステープラーで止める。
- ・指に輪ゴムを通し手のひらを広げてヨーヨー遊びを楽しむ。

(4) 学生の感想

牛乳パックをはさみで切り、ステープラーで止め、輪ゴムを通してヨーヨーをつくり、自分だけ

のユニークなヨーヨーをつくりたいと考えてスイカにした。ヨーヨーが牛乳パックでつくれるのを知らなかったのも面白かった。私は、造形は苦手不得意だと思っていたが、つくるのが楽しくなり、友達とスイカのヨーヨーで遊んだ。

4. 牛乳パックを使った造形教材の実践例2：「跳ねる生き物」

(1) 題材について

牛乳パックを使った跳ねる生き物は、輪切りにした牛乳パックと輪ゴムを使った跳ねる仕組みと、生き物の造形とを組み合わせた動きのある手作りおもちゃで、つくり方は簡単でアクションも大きく子どもは十分楽しめる。輪切りにした牛乳パックの数によって、長くしたり短くしたり、模様や柄を描きシールを貼るなど、子どもの年齢に合わせて工夫できる。題材の跳ねる生き物は、カエル、ヘビ、ウサギやバッタ、カンガルーなど自由なテーマで創作を楽しむ題材である。よく跳ぶのでびっくり箱の中に入れても面白い。

(2) 材料と用具について

- ・牛乳パック ・折り紙 ・輪ゴム ・セロハンテープ ・のり ・はさみ
- ・マッキー ・シール

(3) 造形活動の流れ

- ・牛乳パックを輪切りにしてセロハンテープで縦に繋げる。
- ・牛乳パックの輪切りにした部分に好きな色の折り紙を貼り付け、目と口ものりで貼る。
- ・牛乳パックの折り目に輪ゴムが挟める切り目を入れ、輪ゴムを挟める。
- ・輪切りにした牛乳パックの輪ゴムを伸ばして折りたたみ、手を離し飛び跳ねるのを楽しむ。

(4) 学生の感想

牛乳パックは、飲み終わったら廃材として捨てられるが、今回この牛乳パックを使ってつくるということで、私は「飛び跳ねるへび」をつくることにした。牛乳パックは、紙が固く丈夫にできているため、はさみで切ったりする加工が大変だったが、手で押しても乱暴に扱っても形が崩れないので、子どもにはこの「飛び跳ねるへび」で楽しく遊んでもらえると思う。色紙や折り染めの紙を牛乳パックの周りに貼って楽しく遊べるよう工夫した。また、違うテーマでつくりたいと思う。



写真3～学生の作品「ヨーヨー」～



写真4～学生の作品「飛び跳ねるへび」～

小麦粉粘土を使った造形教材による活動

1. 小麦粉粘土を使った造形教材の概要

小麦粉粘土とは文字通り、小麦粉を材料にした粘土のことである。油粘土よりもベタベタせず簡単に手作りができ色をつけて楽しめる。粘土は、手で「にぎる・つまむ・ちぎる・つける・まるめる・のばす」など他の素材では使われない手指の動きが必要とされる。粘土で形を思うようにつくれなければ、丸めて初めからやり直すことができ、うまくいかなくても繰り返し取り組めるので幼児において適切な教材と言える。水加減によって粘性や軟らかさを調整することにより手に伝わる感触を楽しむことができる。小麦粉粘土は食品でできているので、紙粘土のように長期間の保存は難しいため、活動を楽しんだら片付けなければならないが、粘土が好きな子どもは多く、集中して楽しめる教材である。

2. 小麦粉粘土を使った造形教材を取り入れるねらい

- ・小麦粉粘土をつくり、手に伝わる粘土の感触を楽しむことができる。
- ・いろいろな形をつくり表現することを楽しむことができる。
- ・イメージを膨らませ工夫して完成形を考えて取り組むことができる。

3. 小麦粉粘土を使った造形教材の実践例：「ミニチュアフード」

(1) 題材について

小麦粉と水を使ってつくる小麦粉粘土は、材料は食材なので小さな子どもでも安心して使うことができる。水加減によって粘性や軟らかさを調整するため変形、成形しやすいので、扱いやすく手に伝わる感触を楽しむことができる。粘土をつくることから子どもと一緒に作業し、できた粘土に食用色素を入れて色付けをしてカラー粘土にもでき、ちぎったり、丸めたり、くっつけたりして形を自由に変えることができる粘土は、幼児にとって扱いやすい魅力的な素材である。今回の題材は「ミニチュアフード」ということで、自分の好きな食べ物や身近な食べ物のミニチュアをつくるので、興味・関心も強く楽しく制作ができ、作品が出来上がった時の喜びも大変大きい。

(2) 材料と用具について

- ・小麦粉（小麦アレルギーの子どもがいる場合は米粉でも代用可。）
- ・水（季節によっても硬さが変わるので調整しながら入れる。）
- ・油少々（仕上がりをなめらかにする。） ・塩少々（防腐剤の役割を果たす。）
- ・食用色素 適量（色に合わせて調整する。赤・黄・青・緑・黒がある。）
- ・ボウルなどの容器 ・粘土板 ・粘土ペラ

(3) 造形活動の流れ

- ・ミニチュアフードのアイディアスケッチを描く。
- ・ボウルに小麦粉と塩を入れてよく混ぜる。
- ・ボウルに水を少しずつ加え材料をこねる。水の量は適度な柔らかさを保つために調整する。
- ・材料が均一に混ざり好みの柔らかさにまとまるまでこねる。必要に応じて小麦粉、水で調節す

る。

- ・油を少し入れてこねる。(油はなくてもできるが、入れるとまとまりが良くなる。)
- ・小麦粉粘土に指で凹みをつくり、食用色素(絵の具)を入れて再度混ぜ合わせればカラー粘土になる。食用色素の混色により、オレンジ(赤+黄)、クリーム色(黄を少なめに)、ピンク(赤を少なめに)紫(赤+青)、茶色(赤+青+黄)などを理解する。
- ・カラー小麦粉粘土を使ってミニチュアフードをつくり、できた作品を紙皿にのせる。

(4) 学生の感想

- ・小麦粉粘土を捏ねる作業は「さらさら」「べとべと」など様々な感触があり楽しく、出来上がった小麦粉粘土は触ると気持ちがよくストレス発散になる。粘土の着色は、思い通りの色を出すのが難しかった。粘土ベラなどの道具は、線や模様付け、形を整える時に役立った。自分のイメージを形にすることが楽しく夢中になってつくることができた。子どもにも多くの経験をさせてあげたいと思う。



写真5～学生の作品「目玉焼きとウインナー、しゅうまい」～



写真6～学生の作品「ケーキ」～

考 察

事前のアンケート調査でつくる領域に苦手意識のある学生が多い実態を受け、つくる領域において「カラーセロハン」「牛乳パック」「紙コップ」「紙皿」「小麦粉粘土」「紙粘土」「新聞紙」「折り紙」「ダンボール」などの教材を活用したつくる活動について学生に体験してもらった。これらの教材については、幼児造形教育の「つくる領域」の中でよく取り上げられる教材である。教材として入手が簡単で身近にあり費用も比較的安い。さらに切る、穴をあける、折る、捏ねる、曲げる、貼るなど加工しやすく扱いやすい。また、多種多様なテーマで作品をつくることができる。

特に、「紙コップ」「牛乳パック」「小麦粉粘土」の3つの教材は、授業後のアンケート調査から、学生は、教材を簡単に加工し自身のイメージを表現し、楽しんで造形活動に取り組むことができた。さらに保育者になった時にも実践したいと記述していた。

紙コップの造形教材としての良さは、安価でたくさんの数を確保でき、様々なサイズがあることである。紙コップの材質は、柔らかく切ることや穴を開けるなどを簡単に行うことができ、絵を描くことやシールを貼ったり、接着剤やセロハンテープなどで他の素材を付けることも容易である。「マラカス」や「けん玉」「手提げバッグ」「魚釣り」「びっくりカップ」など多種多様な物をつくる

ことができ、子どもの年齢に合った工作が楽しめる。授業後には90%の学生が加工技術を容易に感じ表現することが楽しかったと感想を持った。

牛乳パックは、飲み終わったら廃材となりこれを使って様々な物をつくることは、廃材も再活用できることを学べる教材である。造形に使う教材は安く手軽に入手できることが大事である。牛乳パックは、四角柱なのでつくる物の計画が立てやすく扱いやすいのも利点である。紙が厚く丈夫で耐水性のため水を扱う造形にも適している。授業後の学生の感想では、牛乳パックを使って「違うテーマで次の作品を考えたい」「もっとつくってみたい」「実習で取り入れたい」という、意欲や積極性が強く持てた学生が84%であった。

小麦粉粘土は、小麦粉を中心に食品でつくるため安全であり食用色素でカラフルな作品をつくれる。混色で色彩感覚を養えるため、その後の造形表現へとつなげることができる。捏ねたり、成形する過程で手指を存分に使うため学生も大変喜んで活動できた。幼児は、手指の巧緻性を高め、様々な表現を豊かにしていく。粘土でつくることは、色の違う粘土を組み合わせ、適切なタイミングで道具等を使い、計画的に作業を進める力が必要で、つくる過程で見通しを立てる力も備わってくる。小麦粉に水を混ぜると少しずつ固まっていったり、水を入れ過ぎるとゆるくなったりと形状の変化も体感することで、学生から「どうしてだろう」「なんで」という声も聞こえた。学生が自分の能力や興味に合わせてつくれる粘土を使っているものづくりは、小学校以来という学生がほとんどで「粘土の感触が好き」「直ぐに形になる」「作品づくりは楽しい」などと、学生の95%が粘土による表現に自信を持つことができた。

これらの教材は、どれも特別のスキルを必要とせず、ちょっとした発想や偶然性から想像力をかきたて、比較的簡単に思いもよらぬ作品が結果として表現されるということを学生は体験を通して実感することができた。さらに、学生の感想にもあるように、自身の作品に満足感、達成感を味わい表現することの楽しさを体験するとともに、実際に子ども達に指導する時のことまでもイメージし、自信を持てたことがわかる。

結 論

今回授業で取り扱った「紙コップ」「牛乳パック」「小麦粉粘土」の3つの教材は、授業後のアンケート調査から多くの学生がものをつくることに興味・関心を持つことができ、楽しんで造形活動に取り組み、保育者になった時にも是非取り組みたい造形の題材であると記述した学生が多く、表現することの楽しさを学生自身が体験することで造形表現の苦手意識の改善に大きな成果を上げたことは明らかである。さらに保育士や幼稚園教諭になった時の自身の姿をイメージして、具体的な造形の指導にまで学生の意欲を高めることができた。また、この教材の受講後のアンケート調査で82%の学生が「造形に対するイメージが変わった」という回答をしており、授業を通して学生の造形に対するイメージの変化がはっきりとみられた。「造形は、上手にすることや、きれいに仕上げる」ことが目的ではなく、子どもが何に苦勞し、何を発見し、何に歓喜するのかということを知り、保

育者が一緒に楽しむことが重要である。」ということを学び取り、これまでの苦手と思っていた意識を変えることができた。この事は、苦手意識を抱く一因として、学生自身に実体験を伴う楽しい経験や感動が不足しているという事を前提に、教材に技術力の問われない題材などを設定したことで、学生自身が楽しく表現できたと感じる体験が効果的にできたことを示している。

幼児の造形活動が充実し、活動のねらいが達成されるためには、言うまでもなく活動環境が大切である。環境には人的環境と物的環境があり保育士や幼稚園教諭は重要な人的環境である。指導・援助に当たる保育者たちが、幼児と活動の楽しさを共有することで幼児はその活動に夢中になり没頭する。幼児は様々な活動を通して豊かに発達していくものであり、よって学生が造形活動に楽しく取り組めることは非常に重要なことである。

参考文献

- おかもとみわこ・石田敏和. (2018). 新版実践保育内容シリーズ⑥造形表現. 一藝社.
- 樋口一成. (2018). 幼児造形の基礎「乳幼児の造形表現と造形教材」. 萌文書林.
- 渡辺一洋. (2018). 幼児の造形表現. ななみ書房.
- 内野 務. (2016). 造形素材にクワイ本. 日本文教出版.
- 岩田健一郎. 前田豊稔. 八木遼蒼. 矢元政行. 小山貞雄. 東山 明. (2019). 造形表現論. 豊岡短期大学通信教育部.
- 監修. 無藤 隆. (2019). 幼稚園教育要領ハンドブック2017告示版. 学研.
- 監修. 汐見稔幸. (2019). 保育所保育指針ハンドブック2017告示版. 学研.
- 監修. 無藤 隆. (2019). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック2017告示版. 学研.
- 松下明生. (2016). 保育者に必要な造形能力についての研究～アンケートから見る保育者が必要と考える造形能力についての検証～. 名古屋柳城短期大学研究紀要. 第38号.
- 堀内秀雄. 杉本亜鈴. (2017). 造形指導の現場と大学授業の実際から見る～幼稚園教諭養成大学造形カリキュラムのあり方～. 東京成徳短期大学紀要. 第51号.